

令和4年度地域運動部活動推進事業

休日の部活動の段階的な地域移行に関する実践研究 成果報告書

自治体名	栃木県教育委員会 担当課：スポーツ振興課 電話番号：028-623-3415
------	---

1. 事業の概要について

1.1 基本情報（令和4年度4月末時点）

① 中学校数	164校	② 生徒数	51,241人	③ 部活動数	1,891部活
--------	------	-------	---------	--------	---------

1.2 地域における現状・課題

【現状】

- 本県で毎年実施している「運動部に関する調査」の結果では、本県中学校運動部員数は減少傾向にあり、運動部活動加入率は緩やかな低下傾向にある。また、中学校の運動部設置数はほぼ横ばいであり、1部当たりの部員数は減少傾向にある。
- 県中学校体育連盟主催大会への合同チームによる参加数が増加の傾向にある。
- 県で令和4年度実施した「教員の部活動に関する意向調査」の結果では、公立中学校の部活動顧問の約35%が「初めて担当する部であり、これまでの経験はほとんどない」と回答している。
- 教員の時間外勤務時間の大きな要因の一つとして、部活動指導が挙げられている。

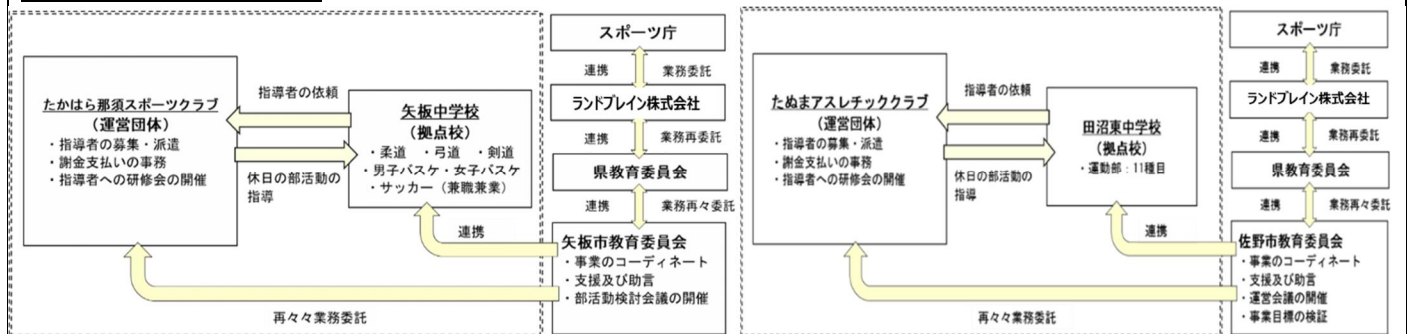
【課題】

- 運動部員数の減少により単独でチームを組めない部活動が増えてきている。そのため、近隣の学校や地域で協力しながら練習や大会に参加するしくみが必要である。
- 部活動は勤務時間外に行われることが多いことから、部活動指導を行いながら休日を含めた在校等時間をなくすことは困難である。部活動を地域が担える体制を構築し、生徒のスポーツ・文化芸術活動の機会を確保することが必要である。
- これまでの学校部活動を通じた教育的意義を地域の活動においても継承・発展させていくには、学校・行政・運営団体の三者連携と教員の兼職兼業を含めた指導者の確保が必要である。

1.3 実践研究における取組目標

- 中学生のスポーツ活動を地域が担える指導体制の構築を図る。
- 専門的な技術指導による生徒の意欲や技術の向上を図る。
- 教員の負担感の軽減を図る。
- 対象となる運動部活動顧問の時間外勤務総時間数が削減できるようにする。

1.4 実践研究の運営体制



2. 地域連携や地域移行の推進に向けた体制整備の取組について

- 栃木県部活動改革検討委員会の開催
- 地域移行支援コーディネーターによる効果的な支援（部活動の地域移行へ向けた普及・啓発活動）
 - ・教育事務所、市町教育委員会、総合型地域スポーツクラブ等へ説明会の開催
 - ・各市町の現状把握・意見交換
- 実践研究校への視察（矢板市立矢板中学校、佐野市立田沼東中学校）
- アンケートの実施
 - ・教員の部活動に関する意向調査（対象：市町立中学校、県立中学校、盲・聾・特別支援学校中学部に勤務する教員）
 - ・実践研究校へのアンケート（対象：学校長、教職員、生徒、保護者、地域指導者）

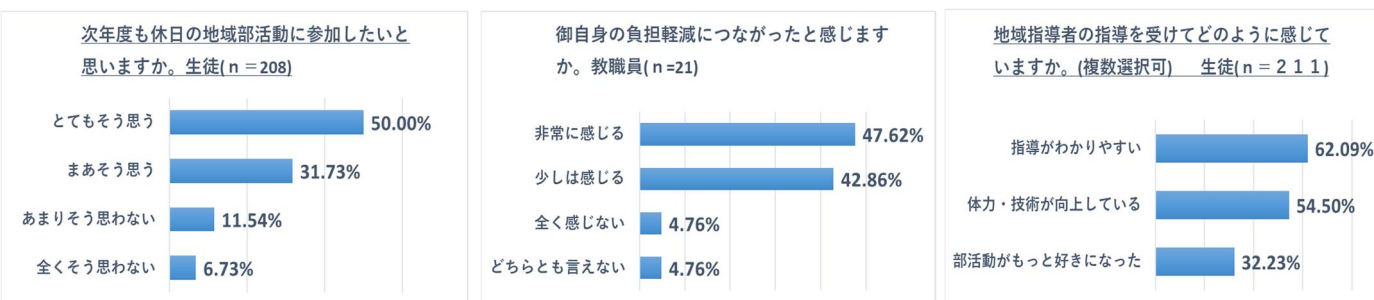
3. 実践研究校における取組について

3.1 参加者の声（生徒、保護者、教師、指導者等）

○「休日の地域部活動に関するアンケート」（栃木県教育委員会スポーツ振興課）

対象者：学校長、生徒、教職員、保護者、地域部活動指導者

アンケート結果



- ・地域部活動に参加した生徒の8割以上の生徒が次年度も休日の地域部活動に参加したいと回答している。
- ・地域部活動を実施することで、約9割の教員が「負担軽減につながったと感じた」と回答している。
- ・地域指導者の指導を受け、生徒の約6割が「指導がわかりやすい」、約5割が「体力・技術が向上した」、約3割が「部活動がもっと好きになった」と回答している。

3.2 各実践研究校での取組を通じて学んだ課題や解決方法、取組において特に工夫した点

○指導者の確保

- ・運営団体のみで指導者を確保していくことは困難であるため、市の教育委員会が市のスポーツ協会に協力を依頼したり、学校部活動の外部指導者を紹介したりするなど、関係団体と連携を図りながら指導者の確保に努めた。

○指導者養成

- ・これまでの学校部活動を通じた教育的意義を地域の活動においても継承・発展させていくために、市教委主催の地域指導者に対する指導者研修会を開催し、部活動ガイドラインの内容等を説明することで指導者の質の向上に努めた。

○顧問と地域指導者の連携

- ・顧問と地域指導者が練習内容や連絡事項を伝達するために、活動日誌等を活用し、情報の共有を図った。

4. 実践研究の成果と今後の課題

4.1 実践研究での検証から得た成果

- ・競技経験のある地域指導者の専門的な指導により、生徒の体力や技術、参加意欲の向上につながった。
- ・実践研究を始めるにあたり、地域指導者を対象にした研修会を開催したことで、地域指導者の適切な指導につながった。
- ・地域部活動を実施することで、約9割の教員が「負担軽減につながったと感じた」とアンケートで回答した。
- ・総合型地域スポーツクラブの業務内容についての理解が深まり、地域に地域移行を進める上での貴重な情報を得ることができた。

4.2 地域移行における今後の課題と対応

【関係者との連絡調整・連携体制の構築方策】

- ・部活動の地域移行を丁寧に進めていくため各関係者に参加を依頼し、検討会議を開催する。
- ・県が配置する総括コーディネーターを各市町や学校、総合型地域スポーツクラブ等に派遣し、地域移行に係る情報提供及び指導・助言を行う。

【指導者の確保方策】

- ・地域クラブ指導者の養成講習会を開催する。
- ・栃木県版地域クラブ指導者バンクへの登録を促進する。
(公認資格取得者や競技団体や総合型地域スポーツクラブに所属する指導者等)

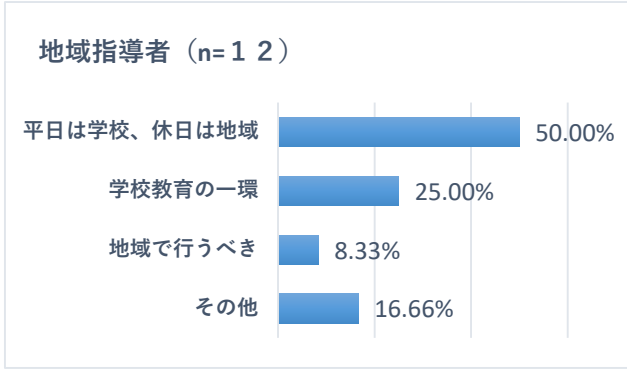
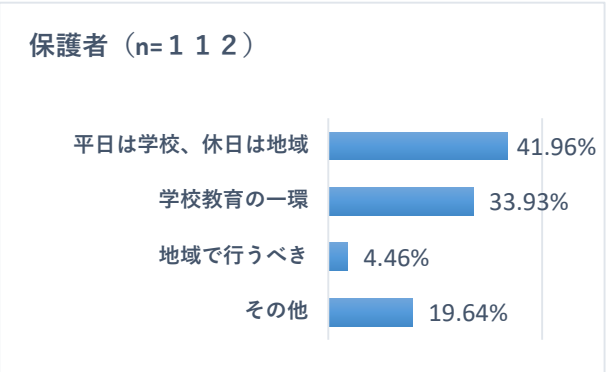
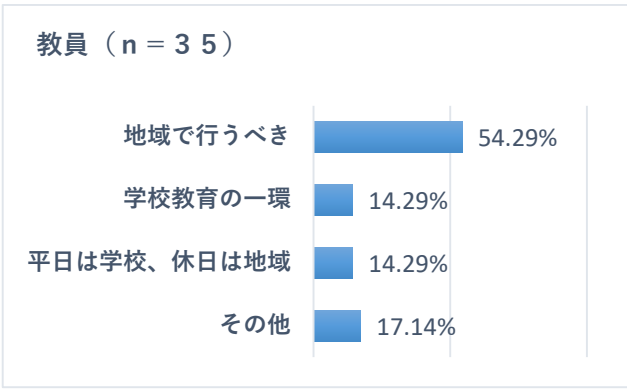
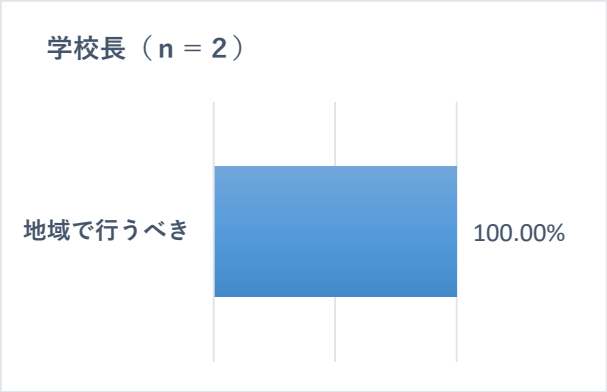
【関係団体との連携方策】

- ・関係団体に対して、部活動の地域移行に係る説明会を開催し、総括コーディネーターの役割や実践研究の成果と課題の説明や情報交換を行う。

令和4(2022)年度 休日の地域クラブ活動に関するアンケート結果について【概要版】

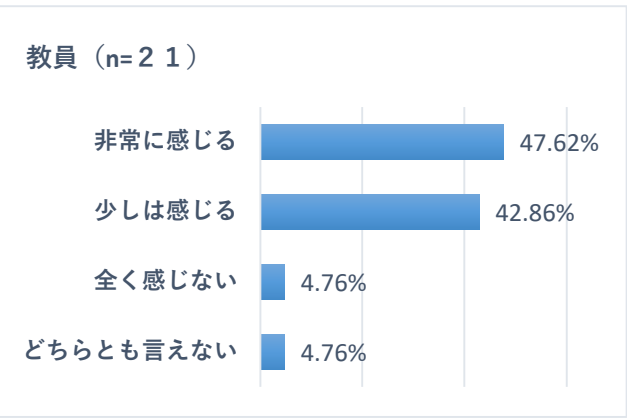
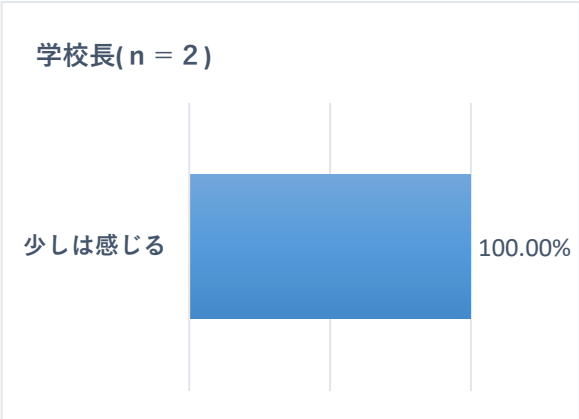
1 部活動は将来どうあるべきか。

部活動を将来的には「地域で行うべき」と校長は考えており、教員の約5割も同様の回答をしている。一方で、保護者の約3割、教員の約1割、地域指導者の約2割は、「将来も部活動は学校教育の一環として継続すべき」と考えている。



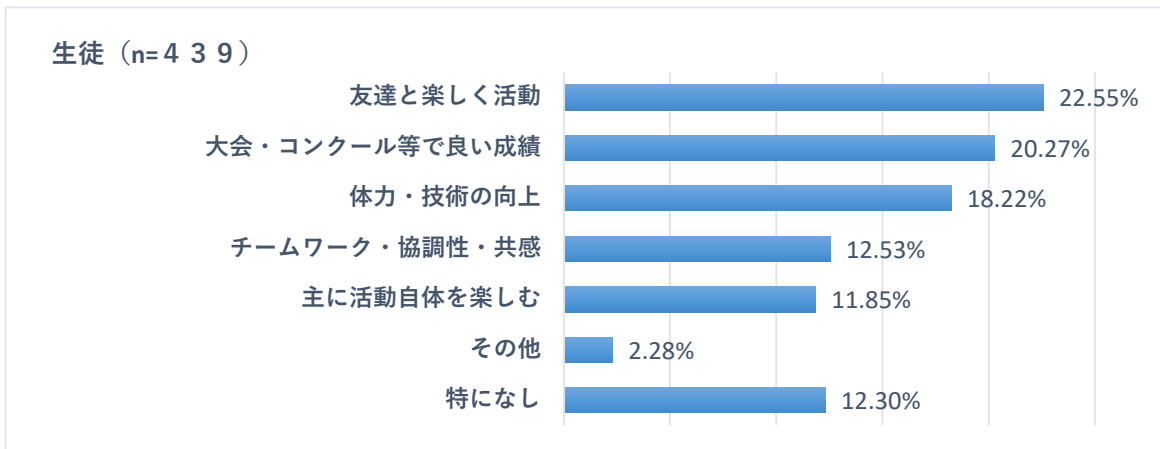
2 休日の地域クラブ活動は教員の負担軽減につながったと感じるか

校長及び教員の約9割以上が地域クラブ活動は「教員の負担軽減につながった」と感じている。

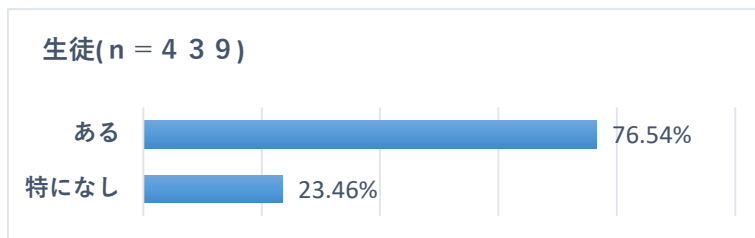


3 部活動に所属している目的はどれに当てはまりますか。

生徒が部活動に所属している目的は、「友達と楽しく活動すること」や「大会やコンクール等で好成績を収めること」、「体力や技術の向上」、「チームワークや協調性を味わうこと」など様々であった。

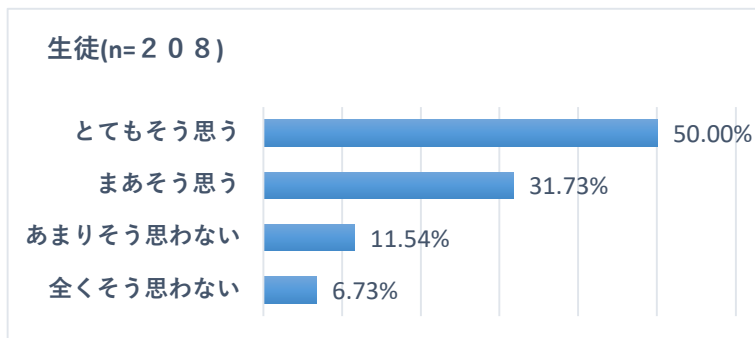


4 学校にある部活動以外でやってみたい種目や活動がありますか。



75%以上の生徒が学校にある部活動以外でやってみたい活動があると回答している。

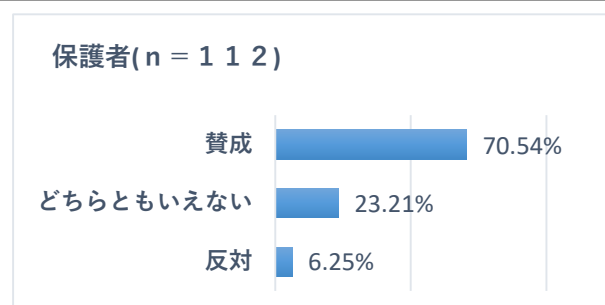
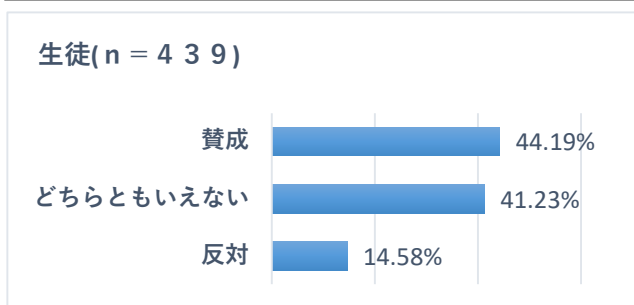
5 次年度も休日の地域クラブ活動に参加したいと思いますか。



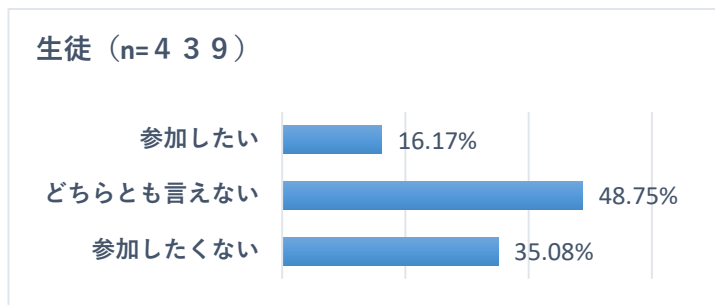
地域クラブ活動に参加した生徒の8割以上の生徒が次年度も休日の地域クラブ活動に参加したいと回答している。

6 地域クラブ活動において、小学生や高校生、高齢者等の多世代と活動することは賛成ですか。

小学生や高校生、高齢者等の多世代と活動することに対して、生徒の約44%、保護者の約70%が賛成と回答している。一方、生徒の約14%、保護者の約6%が反対と回答をしている。

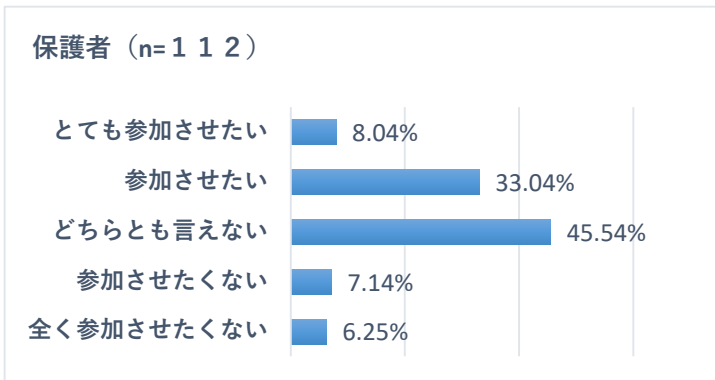


7 月謝を支払う場合の休日の地域クラブ活動への参加について。



月謝が発生した場合、約半数の生徒は参加を迷っており、生徒の約35%は「参加したくない」と考えている。

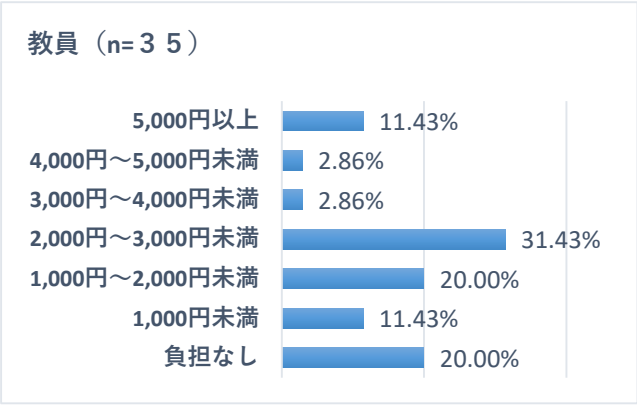
8 地域クラブ活動に参加する際に保護者負担があっても参加させたいか。



保護者の負担がある場合、保護者の約4割が「とても参加させたい」、「参加させたい」と回答している一方で、約1割は「全く参加させたくない」、「参加させたくない」と回答している。

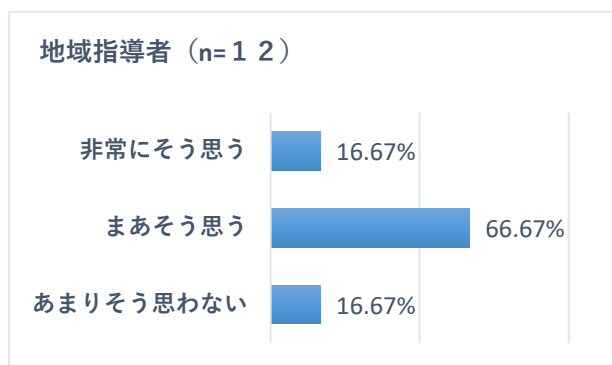
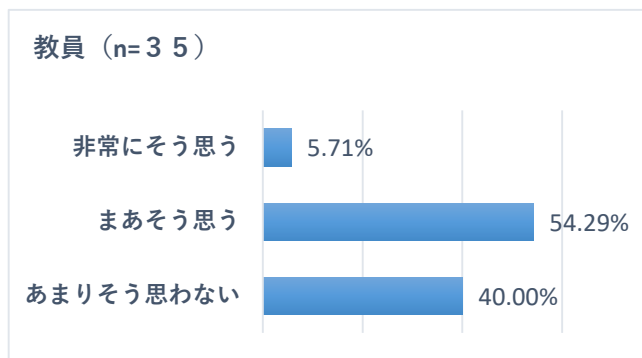
9 休日の部活動が地域へ移行した場合、保護者が負担する妥当額（月謝）はいくらか。

3千円未満が妥当であると回答している割合が高いが、教員の20%、保護者の約24%、地域指導者の25%が「負担なし」と回答している。また、教職員や地域指導者の約1割は「5千円以上」が妥当としている。



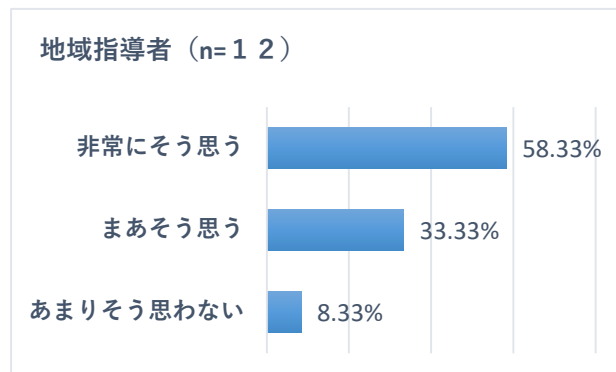
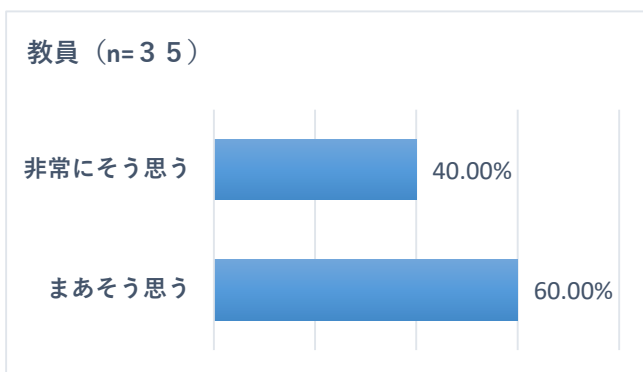
10 技術力の向上を重視し、大会・コンクールでの好成績を目指すべきか。

教員の60%、地域指導者の約83%が「大会・コンクールで好成績を目指すべき」と回答している。一方、教員の40%、地域指導者の約17%が「あまりそう思わない」と回答している。



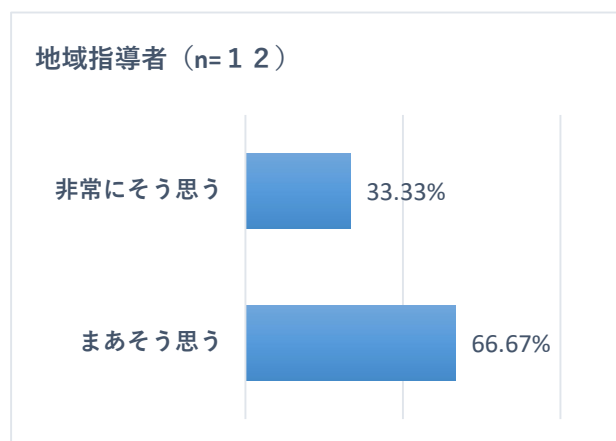
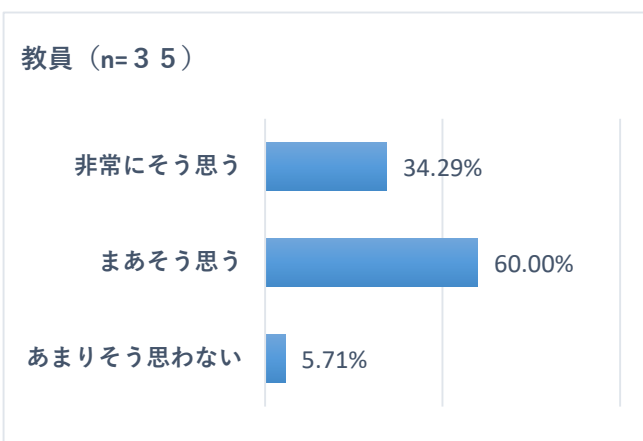
11 生涯スポーツのための運動習慣の形成に向けて楽しく活動すべきか。

教員も地域指導者も「運動習慣の形成に向けて楽しく活動すべき」と回答している。



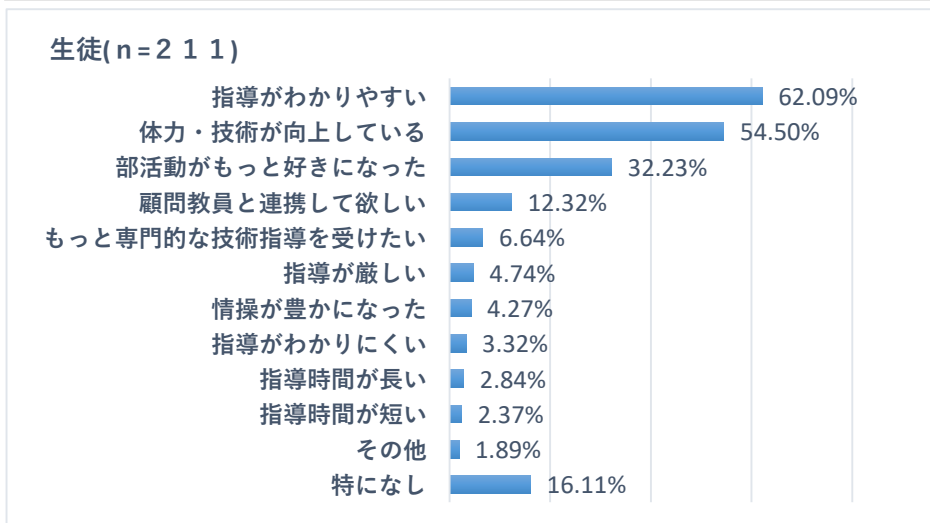
12 生徒のニーズに合わせた多様な活動ができるようにすべきか。

教員や地域指導者の約9割以上が「生徒のニーズに合わせた活動ができるようにすべき」と回答している。



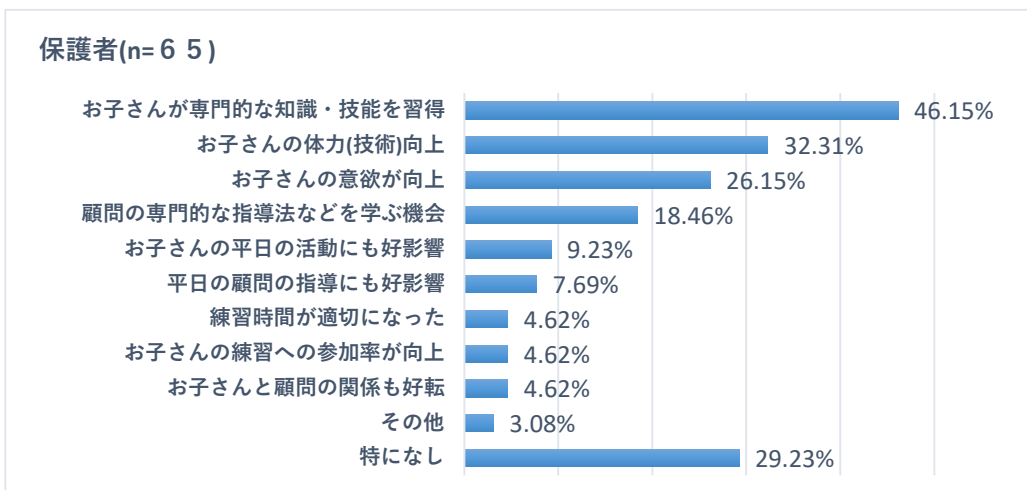
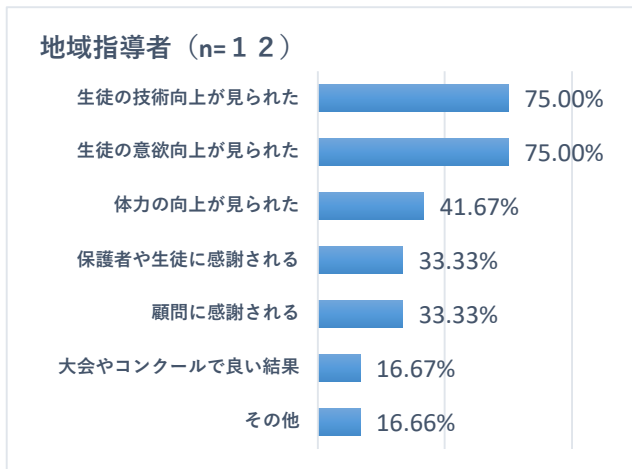
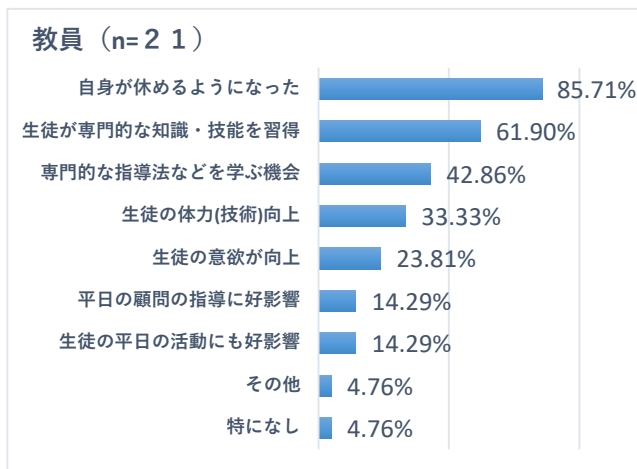
13 地域指導者の指導を受けてどのように感じていますか。

地域指導者の指導を受け、生徒の約6割が「指導がわかりやすい」、約5割が「体力・技術が向上した」、約3割が「部活動がもっと好きになった」と回答している。



14 休日の地域クラブ活動を実践して、良かったと感じること。

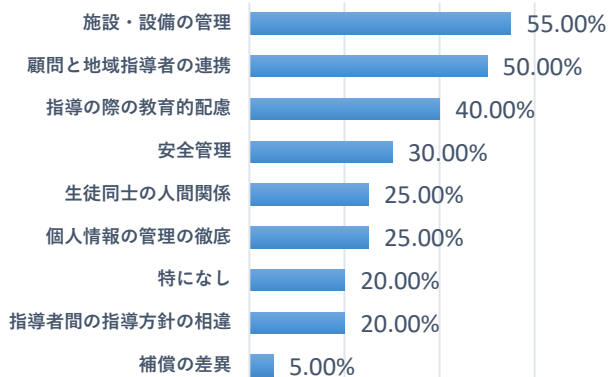
教員は、「自身が休めるようになった」、「生徒が専門的な知識・技能を習得できた」との回答が多く、地域指導者は、「生徒の技術や意欲が向上した」との回答が多かった。保護者は、「お子さんの専門的な知識・技能、体力、参加意欲が向上した」との意見が多かった。



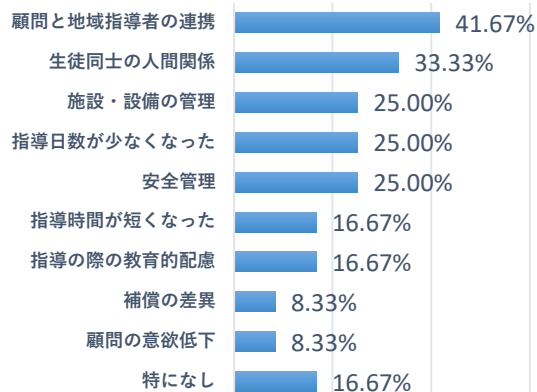
15 休日の地域クラブ活動を実践しての課題

休日の地域クラブ活動を実践しての課題は、「指導者間の連携」が多くが挙げられていた。さらに、教員からは、「施設・設備の管理」や「指導の際の教育的配慮」、「安全管理」、地域指導者からは「生徒同士の人間関係」が課題として挙げられた。

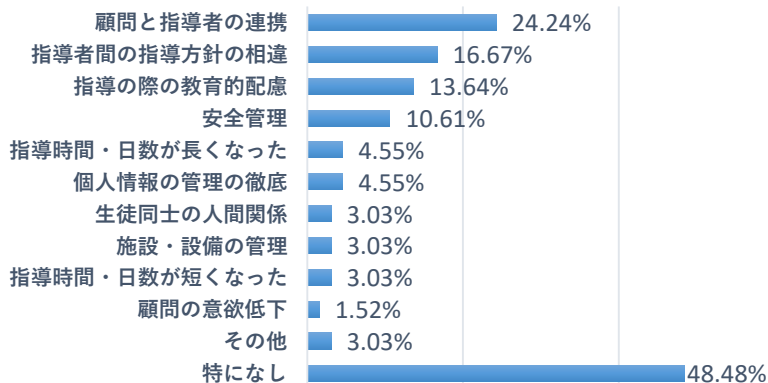
教員 (n=20)



地域指導者 (n=12)



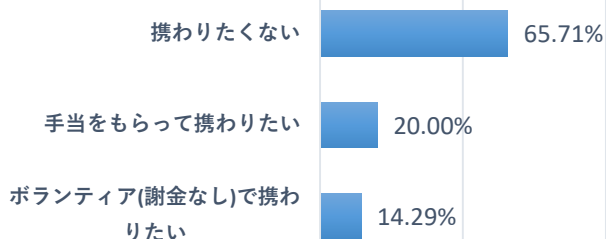
保護者(n=66)



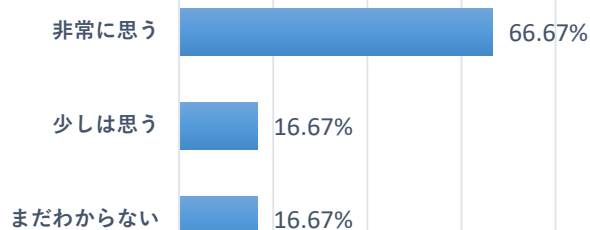
16 休日の部活動が地域に移行した際に指導に携わりたいか

休日の地域クラブ活動に教員の約7割は「携わりたくない」と回答しているが、約3割は「携わりたい」と考えている。中でも約1割は「謝金なしでも携わりたい」と考えている。

教員 (n=35)

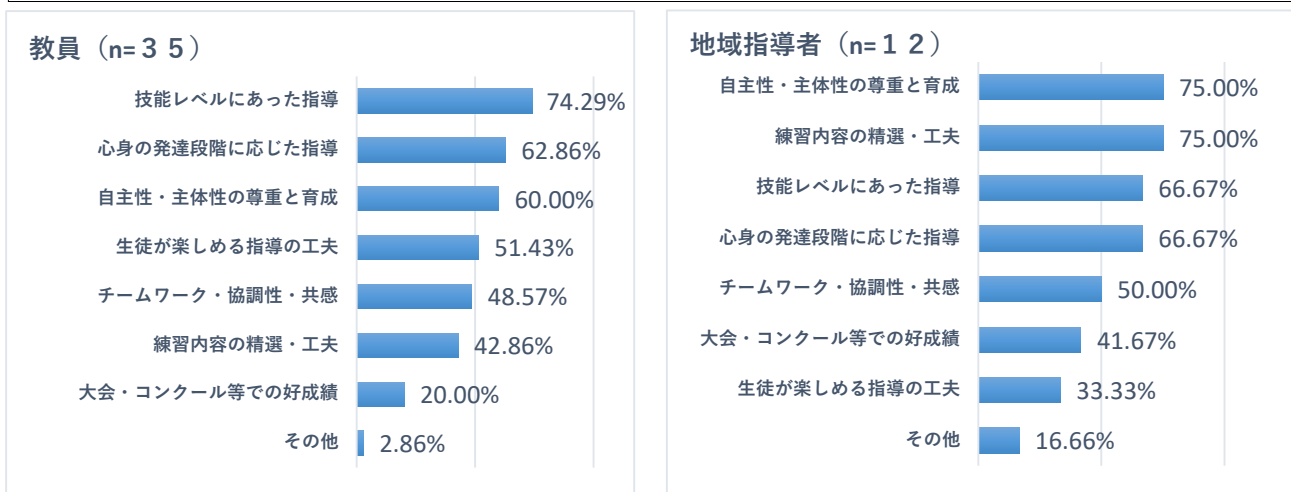


地域指導者 (n=12)



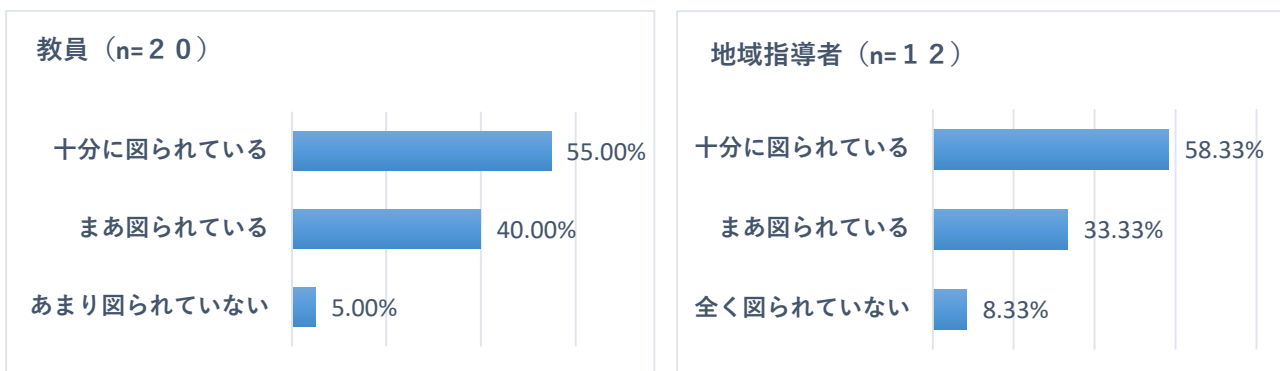
17 休日の地域クラブ活動にあたり、指導者が特に重視するべきと思う点は何ですか。

休日の地域クラブ活動について、教員は、「技能レベル」や「発達段階」など生徒の実態に応じた指導を重視するべきとの回答が多かった。一方、地域指導者は、「生徒の自主性・主体性の尊重と育成」や「練習内容の精選」を重視するべきとの回答が多かった。



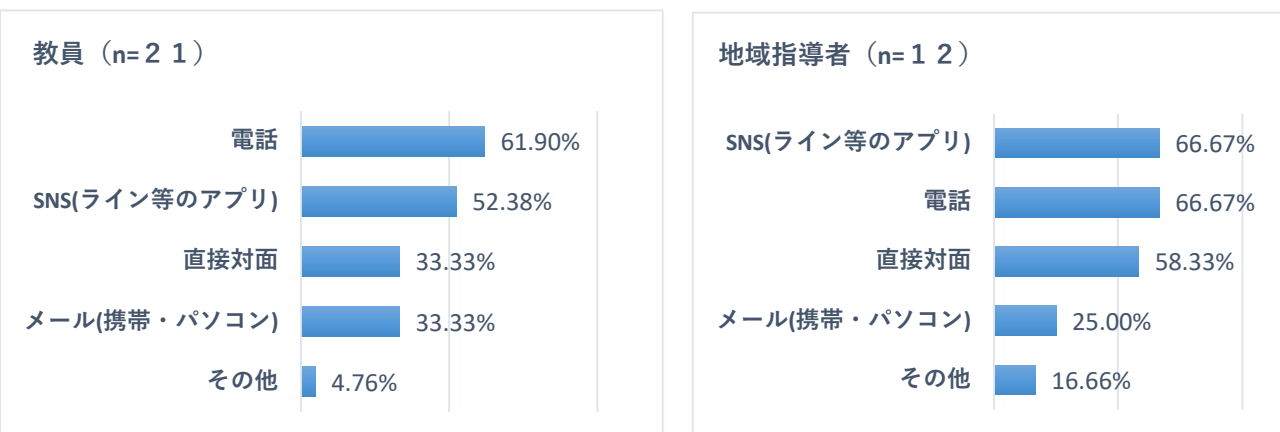
18 顧問と地域指導者との連携は図られているか

教員、地域指導者の約9割が「指導者間の連携が図られている」と回答しているが、地域指導者の約1割が「全く図られていない」と回答している。



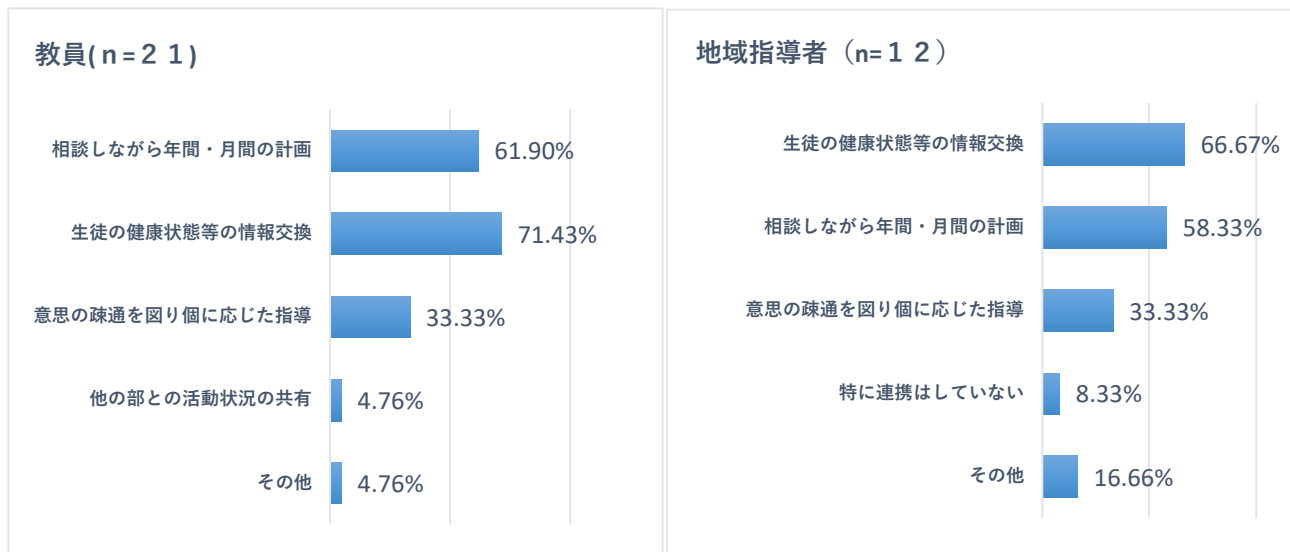
19 顧問と地域指導者との主な連絡手段

指導者間の連絡手段は、電話、ライン等のSNSアプリが多く活用されていた。



20 顧問と地域指導者との主な連携内容等

指導者間の主な連携内容は、練習計画の作成や生徒の情報の共有に関することであるが、特に連携をしていないとの回答もあった。



21 休日の地域移行について（自由記述）

【生徒】

○ 「休日の部活動の地域移行」についての生徒の自由記述は合計で439件であった。その内、地域移行に肯定的な記述は184件（41.9%）とほぼ半数であった。否定的な記述は75件（17.1%）、「どちらとも言えない」などの中間的な記述が180件（41.0%）である。

○ 肯定的記述の67.4%は「いいと思う」等の単純肯定である。「地域との交流が増える」や「技術が向上する」といった希望的肯定は13.6%であり、「休日のみであれば」、「活動内容や環境に大きな変化がなければ」などの条件付で肯定する記述が9.2%あった。また、安全面や学外者との人間関係に不安を抱えつつ肯定する記述も若干あった。

○ 否定的な記述では「反対」「よくない」などの単純な記述が大半であったが、活動場所への移動を伴う負担や費用の負担による否定、学外者と活動することへの不安や顧問教師への信頼から学校部活動の維持を希望する記述もみられた。また、吹奏楽部などの文化部において楽器や荷物の移動が負担であるとの記述もあった。

【保護者】

○ 「休日の部活動の地域移行」についての保護者の自由記述は合計で112件。その内、地域移行に肯定的な記述は52件(46.4%)であった。否定的な記述は24件(21.4%)、「どちらとも言えない」などの中間的な記述が36件（32.1%）であった。

○ 肯定的記述のうち、「条件付で肯定」の割合が57.7%であり、地域移行に概ね肯定的ではあるが何らかの条件を追記した意見が多い。その条件をみると、「教員の負担軽減につながるのであれば」、「生徒の技術向上につながるのであれば」との内容が多くみられた。

○ 否定的な記述内容では、「保護者の金銭的な負担や送迎の負担が増えることへの懸念」や「地域指導者の教育的観点からの不安」などがあげられている。また、休日に活動すること自体に否定的な意見もあった。

○ どちらとも言えない中間的な記述には、「どちらにしても、指導者は平日も休日も同じ人がよい」、「指導者の資質による」などの記述がみられた。

【学校長】

- ■市▲部の発足も含めて、可能な部活動からどんどん進めてほしいと思います。
- 必ず地域移行を進めるべきと考えます。

【教員】

(肯定的)

- 近い将来、地域に移行することを見据えて、段階的に実験的に休日の部活動をさらに進めていくべき。
- 行政と連携して速やかに移行してほしい。
- 教員の働き方改革の観点から見れば、休日に休みを確実に取れるようになることは大きいと思う。

(否定的)

- 活動場所や何か起こったときの対応等指導者に理解してもらわないと難しい。
- 鍵を開ける時や職員室の出入りが誰か教員が学校に行かないと厳しいので対応の方法を考えた方が良く感じた。
- 中体連主催の大会をどうしていくかが課題。指導したい教員としたくない教員の熱量の差がある。
- 個人的には部活動指導は教育活動に大きく影響しているので、続けていきたい。しかし、兼職兼業までして行うのもどうかと思うので、地域移行せず、活動時間や大会の精査で働き方の見直しをしていただきたいと感じる。

(条件付)

- 教員の働き方改革には大きく繋がると思います。今後どんどん進められればよいと思います。ふさわしい受け皿が地区(学区)ごとにあればよいのですが、全ての学校で実施となると、なかなか難しい。
- いろいろ解決しなければならない課題はあると思いますが、生徒の成長を最優先に考えた体制作りをしてほしいと願います。
- 休日の部活動は多くの教員にとって負担になっていると思うので、国や県にはぜひ進めていただきたいが、学校の負担を減らすためにも学校以外の施設を利用できるようにしてもらいたい。
- 経済的に負担がなければ良いと思います。
- 生徒たちが地域部活動を楽しみにし、一生懸命練習に取り組む様子が見られるためよい動きだと思う。文化部は地域指導者を探すのが難しいと思うので、そこをどのように調整していくか考えていく必要がある。
- 地域移行が進むことは理解できるが、不透明なことが多く、実際に動き出せるのかどうか心配である。
- 地域移行されるのは良いことだが、学校の方針を理解し、教育的な配慮のできる指導者をどれだけ確保できるかが課題であると思う。
- 日本全土でシステムが変わるという事を、国民に理解してもらい、波にのるまでが心配。

【地域指導者】

- まず指導者の確保、そのためには各競技団体やスポーツ少年団の協力を得ることが最優先課題だと思う。
- 移行は賛成だが、学校から完全に切り離すのはどうかと思う。
- 学校での指導が困難な状況では、地域のスポーツ団体とも連携を図りながら進めていくことが求められる。
- 休日の地域移行は賛成ですが、問題は休日に地域が場所又は施設そして指導者をどう準備して活動するか。これからの課題だと考えております。
- 休日の部活動に参加希望する顧問の先生は参加できる方が良いと思う。
- 教職員の休暇を増やし、学生に普段とは違った目線で指導が出来る為、WIN-WINの素晴らしい制度だと考える。
- 指導者の確保のための取り組み（財源確保、人材育成）が必要であると感じています。
- 生徒も指導者もお互い幸せだと思える内容になることが、大切です。